

「駒澤大学防災対応マニュアル（2012年11月8日修正版）」（以下「防災対応マニュアル」という。）に基づき、巨大地震等の大規模災害・事故等が発生した場合の対応について以下のとおり定める。

## 動物実験施設における緊急時対応マニュアル

（平成26年10月27日）

### ● 動物実験中及び実験施設内在室中に災害が発生した場合の対応

- 1) 災害発生時には、まず身体の安全確保を行い、構内放送等の指示に従う。
- 2) 実験中の動物への対応
  - ・ 原則として災害発生時には動物が飼育室あるいは実験室の外に逃亡しないようにする。
  - ・ 実験中の動物はケージに収容し、床あるいは飼育棚に戻す。
- 3) 使用中の機器への対応
  - ・ 運転を緊急停止する。
- 4) 飼育室・実験室からの避難（防災対応マニュアル No.避-1-2）
  - ・ 構内放送並びに避難誘導班員の指示に従い、避難する。
  - ・ 避難時には動物の逃亡がないよう必ず扉を閉める。

### ● 災害発生後の対応

- 1) 施設の被害確認および保全措置の実施（防災対応マニュアル No.防-2）
  - ・ 安全防護班が担当教員と協力し被害確認を行い、必要に応じて保全措置を行う。
  - ・ 確認後は施錠を行い、被害結果および保全措置については事務局（消防本部）へ報告する。
- 2) 実験動物の飼養保管等の対応
  - ・ 災害の規模が大きく動物を適正に飼養保管することが困難と判断された場合、動物実験管理者と協議の上、飼養保管中の実験動物を他の飼養保管施設に譲り渡すよう努める。万が一、引き取り先が見つからない場合には、動物実験管理者は必要に応じて実験動物に対し安楽死などの適切な処置を講じる。

※ 現在、本学では心理学分野における鳩（伝書鳩）を用いた動物実験のみを行っており、安全管理に注意を要する遺伝子組換え動物実験、感染動物実験等は一切行われておりません。異なる動物実験を行う場合には、このマニュアルを見直し、再検討いたします。